



春、これからの政治に期待したい

レンゴ―社長 大坪 清

春4月、新しい場所、新しいポジションで、新たな船出を迎える人たちも多いと思う。

昨年末に発足した安倍政権は、いわゆるアベノミクスといわれる日本経済復活への基本方針を掲げ、非常にスピード感のある政策を打ち出されており、日本経済回復への期待感を高めることに成功している。私が従来から考えていたとおりの政策がとられており、非常にうれしく思うと同時に、これからも全面的に応援していきたいと思っている。

日本を再び取り戻すという強い意気込みが感じられ、経済再生とデフレ脱却に向け、既に成果も出てきており、国民の間にも明るさが戻ってきたように感じられる。政治がお手本を示すということが絶えて久しかったが、安倍首相の再登板以来のスピード感と決断力は、大いに見習うべきところである。

加えて評価したいのは、政策の基本として、国益、国富の創出

ということを明確に打ち出されている点だ。日本という国が、「国富」をどう築き、「国益」をどう高め、国家として存在するための基本である「国防」をどう計っていくのか。グローバル競争の時代であるからこそ、「日本」そして「日本人」としてのアイデンティティーを、自立と自律の観点からいかに確立していくかが問われている今、極めて時宜を得た政策だと思う。

福島県南相馬市にある当社のグループ会社、丸三製紙では現在抄紙機の更新を進めている。福島第一原発から25キロの距離にある丸三製紙は、東日本大震災では大きな被害を受けた。製紙業は装置産業であり、その投資は巨額に上る。しかし、故郷を再生し、未来に向けて持続的に発展、成長していくための拠点たるべく、同社が今後とも競争を勝ち抜いていくためのイノベーションとして、絶対に欠かせない。盤石な基盤を築くことで、南相馬での雇用を守り、地元

税金を納める。そうやって地域経済を良い方向に回していく積み重ねが必要であり、それこそが、地域再生、発展への重要な第一歩であろう。

福島県をはじめ地元の方々から高く評価いただき、「ふくしま産業復興企業立地補助金」の対象事業となった。

すべての被災地、そこに暮らす一人ひとりの気持ち、心の在りように思いを馳せ、その復興再生に向けて、民の立場からも自分たちのできることを考えていきたい。

被災地はもちろん、さまざまな特色を持った地方それぞれが元気になること、それこそが、国富、国益に通ずる道であり、そのためにスピード感と決断力、そしてハートの温もりが感じられる、人間らしい政治を皆でバックアップしていかねばならない。それが真の経済大国としての日本人の矜持ではないだろうか。これからの政治に大いに期待するところである。

本連載は、大坪清、海江田万里、北川正恭、茂木友三郎、清田瞭、平沼赳夫の各氏が担当します